

今泉忠芳句集

Imazumi Tadayoshi

# 日輪馬車のタクト



日輪の馬車のタクトや夏の雲

四頭立馬車の日輪は毎日東の空から西の空へと走ってゆく。  
この日輪のタクトに万象の交響楽が流れる。この一小節の  
一楽器の音を集めてみました。(著者)

早  
春  
の  
白  
猪  
ど  
つ  
し  
り  
伊  
吹  
山

竜  
天  
に  
登  
り  
天  
竜  
川  
光  
る

梅青鮫海の墓標の影なるか

種蒔くと山に種蒔爺の出で

霾や麒麟千里の土煙

忠度のよみひとしらず山桜

春風や西郷どんの着物裾

歌舞伎座に敗けじと畦の鼓草

ピカイアや柳萌え出の葉のごとく

みちのくは遠し家持揚雲雀

馬酔木鈴一千埴輪馬一つ

道風の傘に触るるや柳の芽

このとしの神のお告げや花の頭

風神の袋締めたる春日かな

小人となりて杉菜の森を見上げたし

六つ羽根は米俵なり風車

菟足神社風祭

躑躅垣奥処式部の古硯

石山寺

腕釧若布刈る竿下しけり

答志島

恐竜の裔とは知らぬ春の鳥

ドラマとは戦のこと春の山

亀鳴かず十万年の放射能

行く春や生家帰ると白寿びと

掛軸は朱描鐘馗や初節句

三輪山や幾千萬萬魂若葉

新緑や古墳の皇子の目を覚ます

少女十才マッターホルン氷河光



養蚕の昔桑原はたた神

美剣士の剣先グラジオラスかな

南極の高木岬や麦の飯

蛭一つトラック島も秩父野も

この石は虎の腰掛  
虎が雨

梅雨鎖列島縛り上げにけり

黒南風を八大龍王放ちます

黒南風や出雲簸川の樽八つ

ま  
い  
ま  
い  
に  
舞  
を  
せ  
よ  
と  
や  
蝸  
牛

風  
獣  
の  
群  
の  
這  
ひ  
ゆ  
く  
青  
田  
原

風  
獣  
の  
這  
ひ  
の  
ざ  
わ  
め  
き  
青  
田  
波

炎  
帝  
の  
続  
べ  
る  
天  
球  
朝  
ひ  
ら  
く

ウ  
エ  
ス  
ト  
ン  
レ  
リ  
ー  
フ  
仰  
ぎ  
山  
開  
き

雪  
溪  
や  
ダ  
イ  
ダ  
ラ  
ボ  
ツ  
チ  
匙  
の  
あ  
と

日  
輪  
の  
馬  
車  
の  
タ  
ク  
ト  
や  
夏  
の  
雲

夏  
雲  
や  
倭  
建  
の  
伊  
吹  
山

先づ伊勢の神呼ぶ  
岸边夏祭

身を振り胸太鼓打つ  
稲の精

黒雲の腹より雷鼓続く  
土砂

ギリシヤローマの棘を  
持ちたりアカンサス

織姫の天つ領巾なる夕焼雲

木耳に語る水母のまよひかな

ダークマター銀河押し出す心天

七夕や人麿歌集第一首



句集 日輪馬車のタクト にちりんばしやのたくと

二〇二〇年二月二二日 初版発行

著者——今泉忠芳

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

〒182-0002 東京都調布市仙川町一―一五―三八―二F

電話——〇三(三三三二六)九〇六一 FAX〇三(三三三二六)六九一九

ホームページ <http://furansudo.com/> E-mail [info@furansudo.com](mailto:info@furansudo.com)

振替——〇〇一七〇一―一八四二七三

装幀——君嶋真理子

印刷所——日本ハイコム株

製本所——日本ハイコム株

定価——本体二二〇〇円+税

ISBN978-4-7814-1248-1 C00692 ¥2200E

乱丁・落丁本はお取替えいたしません。

#### 著者略歴

今泉忠芳 (いまいずみ・ただよし)

昭和9年10月27日 愛知県生

昭和34年 東京慈恵会医科大学卒業

昭和39年 医学博士

昭和62年 東京慈恵会医科大学助教授(内科学)